

計画前期の振り返り

- 救急受入体制の拡充や手術受入れ件数増の取組みにより、急性期医療機能の強化をすすめました
- 「患者総合支援部」「患者支援室」の設置や、「患者サポートセンター」窓口のオープンにより、患者さんへの支援や相談受付の体制を整備しました
- 院内での課題の共有により、部門毎による目標管理や経費削減に取り組みました

1. 急性期医療を中心とした医療機能の充実

【めざす姿】

- 当院のもつ医療資源を余すことなく発揮し、地域の急性期を担う中核病院として手術を含めた専門的な医療を充実させるとともに、救急搬送される入院患者の受入体制を整備し、救急医療を強化します。
- 地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たし、質の高いがん医療を提供します。

令和5年度（2023年度）及び令和6年度（2024年度）の振り返り

主な取組み	成果
●消防局救急救命士の院内配置試行実施（令和6年10月）	●当院と消防局で救急医療に関する課題を共有し、増加する救急需要に対応する新たな体制づくりを進めました。
●上記24時間体制の本格実施（令和7年度）	●緊急手術患者の受入れペースを向上させました。
●土曜日手術の開始（令和7年（2025年）1月）	
●通常時間帯の手術運用効率化と緊急手術フローの見直し	

2. 地域連携の推進

【めざす姿】

- 地域住民が安心して住み慣れたまちで生活できるよう、地域の医療機関や介護事業所、薬局等の関連機関と連携し、地域の医療提供体制を守ります。

令和5年度（2023年度）及び令和6年度（2024年度）の振り返り

主な取組み	成果
●患者総合支援部及び患者支援室の設置（令和5年度（2023年度））	●紹介受診の円滑化、入院前支援、退院支援など、より密接に地域医療との連携に向けて取り組みました。
●「救急連携搬送（下り搬送）」の試行実施（令和7年（2025年）4月）	●17の医療機関と協定を締結し、試行実施しました。

3. 医療の安全と患者サービスの向上

【めざす姿】

- 患者やその家族が安心して当院の医療を受けられるよう、安全で質の高い医療を提供するとともに、患者目線に立った心温かなサービスを提供します。

令和5年度（2023年度）及び令和6年度（2024年度）の振り返り

主な取組み	成果
●インシデント報告による医療の透明性の確保	●インシデント報告件数については、引き続き多くの件数が報告されており、積極的な報告文化が根付いています。
●全ての入院患者を対象とした入院前支援の実施と多職種が連携する支援体制の構築	●入院前の面談を通じて治療内容や生活上の留意点を共有し、患者さんや家族の不安軽減を図るとともに、早期に課題を把握して地域医療機関と連携することで、退院までの流れを円滑にしました。

4. 安定した経営基盤の確立

【めざす姿】

- 当院が公立病院として、また、地域の急性期医療を担う中核病院としての役割を果たしていくには、安定した経営基盤を確立し、維持することが必要です。
- 従来からの構造的赤字や、新興感染症の流行による医業収益の落ち込みに加え、世界情勢の影響による経費増に対し、限られた医療資源で最大の効果が得られるよう、最適化による持続可能な経営基盤の確立と維持に取り組みます。

令和5年度（2023年度）及び令和6年度（2024年度）の振り返り

主な取組み	成果
●長時間労働を行う医師に対する面談実施体制の拡充	●「B水準」、「C-I水準」の勤務環境改善を着実に進めました。
●SPD導入に向けた準備と整備（令和6年度（2024年度））	●在庫購入費の削減に加え、共同購入によるスケールメリット効果で経費削減が期待される環境を整備しました。

今後の施策展開の重点方針

I.DPC特定病院群をめざす

- 緊急性症例への対応強化、小児周産期医療の充実、がん診療はじめ高度専門医療の充実強化を核に、疾患構成を転換しつつ医療面の充実強化をはかります
- 医療提供の内容においてステージアップし、地域に不可欠な急性期病院として市民・地域医療機関等からの信頼を搖るぎないものとします

II.経営戦略に基づく変革の加速化・強化

- 資源投入の選択と集中、役割の明確化とポジションの確立、組織学習の向上等、医療面の充実強化に連動した経営戦略を推進します
- 変革の加速化・強化により、医療の向上～経営向上の好循環への到達をめざします

1. 急性期医療を中心とした医療機能の充実

今後の課題及び取組み

今後の課題	主な取組み
●急性期病院としての機能をより適切に発揮していくため、現在の疾患構成の転換と緊急性症例への対応などの重点領域への取り組みをさらに進める必要があります。	●DPC特定病院群へのステージアップに向けた取組み ●手術件数の増加に向けた取組み ●外来業務の見直し ●救急スペースの拡張による救急患者受入れ体制の強化及びスペースのさらなる有効活用
●重症や緊急性度の高い患者さんを確実に受け入れ、迅速に対応できるよう、救急医療スペースの拡充など体制の一層の強化が求められます。	

2. 地域連携の推進

今後の課題及び取組み

今後の課題	主な取組み
●満床時の受け入れ困難に対応するため、軽症や症状の安定した患者さんの他院での入院・受診を促進し、転院先との連携強化と地域内での役割分担の徹底が必要です。	●速やかな転院・退院に向けた支援の強化 ●集患強化と症状が安定した患者さんの地域の医療機関への引き継ぎ(逆紹介)の徹底
●がん手術などの高度医療(充実強化対象疾患)の比率向上には、地域医療機関からの効果的な紹介・集患が必要です	

3. 医療の安全と患者サービスの向上

今後の課題及び取組み

今後の課題	主な取組み
●医療事故等への的確な初期対応に向けて、体制の充実と対応力の継続的な向上が求められます。	●入退院支援のさらなる充実
●こどもや家庭の支援が必要なケースにおいて、関係機関との連携体制を強化し、実効性のある支援につなげていくことが求められます。	●児童相談所など関係機関との連携体制の整備 ●医療DXの導入(オンライン診療)
●年末年始のインフルエンザ患者の急増により外来待ち時間が長期化し、医療提供体制への影響が課題となっています。	

4. 安定した経営基盤の確立

今後の課題及び取組み

今後の課題	主な取組み
●医師・看護師等の確保と定着に向け、職場環境の整備と貢献に応じた適切なインセンティブの付与が求められます。	●柔軟な勤務体制の活用 ●院内表彰制度の拡充及び看護師の職級見直しに向けた調整
●費用増により赤字が拡大する中、安定的な運営継続に向けて、収支の均衡を図る必要があります。	●疾患構成の転換による診療単価の向上 ●費用管理の徹底 ●医療DXによる業務効率化

令和9年度目標指標の見直し 病院運営計画中間見直しより

(1)目標値を達成しているものについて、その評価を行った上で、中間見直しでの取組み方針を鑑み目標値を改めて設定するもの

指標	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	実績値 (令和6年度)	R5・R6 比較	目標値	改・目標値
救急車搬送受入数	6,685人	7,926人	8,876人	↑	7,000人	10,000人
外来がん薬物療法件数（延べ患者数）	6,882人	6,825件	7,300件	↑	7,000件	7,800件
がん登録数（初回治療件数）	1,540件	1,665件	1,722件	↑	1,700件	1,800件
紹介率	74.1%	82.6%	85.3%	↑	80.0%	87.0%

(2)令和6年度より患者満足度調査の形式が変更となったため、数値の取り方を変更するもの

指標	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	実績値 (令和6年度)	目標値	改・目標値
患者満足度『安全・安心』（入院）（「満足」「やや満足」の割合）	96.4%	96.7%	—	100.0%	—
患者満足度『安全・安心』（外来）（「満足」「やや満足」の割合）	92.9%	92.0%	—	100.0%	—
患者満足度『安全・安心』（入院）（「とても満足」「やや満足」の割合）		—	81.9%	—	87.0% *
患者満足度『安全・安心』（外来）（「とても満足」「やや満足」の割合）		—	64.6%	—	72.0% *
患者満足度（入院）（「満足」「やや満足」の割合）	96.9%	97.2%	—	100.0%	—
患者満足度（外来）（「満足」「やや満足」の割合）	92.0%	95.5%	—	100.0%	—
患者満足度（入院）（「とても満足」「やや満足」の割合）		—	73.4%	—	86.0% *
患者満足度（外来）（「とても満足」「やや満足」の割合）		—	59.4%	—	75.0% *

*R6ベンチマーク平均の小数点第1位を四捨五入した数字